

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 1月 28 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470203492		
法人名	アイエルエス株式会社		
事業所名	グループホーム太陽		
所在地	広島市佐伯区利松三丁目25番42号 (電話) 082-929-5533		
自己評価作成日	平成27年12月28日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470203492-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470203492-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年1月19日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>個別ケアを基本とし、家庭的な雰囲気を演出できるような事業所作り力を入れています。また全室が、生活保護対応可能で、医療連携体制等、より多くのお困りの声に応えられるように体制を整えています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>当該事業所は広島市西部の佐伯区南部で、県道41号線と290号線に挟まれ、八幡川に面した比較的閑静な住宅地にあり、また交通便が良く訪問・面会・外出支援に適した立地条件に恵まれている。施設は以前の民家改造型から木造耐火2階建てに新築され、最新の施設としてゆったりとしており、定員も1ユニットから2ユニット18名に改編されて、心機一転した事業所として発足している。事業所の理念は開設以来「いつもの生活がそこに…」を掲げて、利用者が自分らしく穏やかな生活を送れるよう留意し、スタッフが寄り添いながらその人らしい暮らしが継続できるよう支援に努めている。特に利用者の「個別ケア」を重視し、利用者ひとり一人を個人として尊重し、団体として個人を束縛することなく、自由に個々の意向を付度して、施設の雰囲気を排除した自宅同様の個別の暮らしを確保することに力を入れており、利用者・家族にも信頼と満足を提供されている。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念があり、所内に掲示している。 また出勤時に職員は一読している。	事業所開所以来十数年間「いつもの生活がそこに…」を理念として掲げ、全職員で共有して職務に従事している。また、当事業所では別に定められた「倫理規定」や「重要事項説明書」の事業所概要の項目内に「ホームの理念」「ホームの運営方針」などがあり、具体性のある内容が示されているため、全体としてやや混乱を招き、職員が理解・共有し、理念を実践に繋がり難くしている。	事業所理念を定め、共有し、具現化して実践に繋げ易くするために、出来れば全職員で「事業所が目指すサービスの在り方を端的に解り易く示したもので、常に立ち戻るべき根本的な考え方」を論議し、理念として新たに定め、職員で共有し、日々の業務の実践に繋がり易くするなど改善・工夫することにより、更なるサービスの向上がなされるよう期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近所の自家栽培の野菜をホームの食事に使用し、時折お花などももってきて下さる。町内会に入り、清掃活動等にも参加している。その他、近隣の方からの介護相談も受けている。	事業所として町内会に加入し、職員が町内運動会に参加したり、毎週近所の青空市に買い物に出かけたり夏祭りや地域の清掃活動に協力したりと行事や日常の活動を通じて積極的な交流に努め地域の一員として、近隣住民の仲間として良好な関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近所からの介護相談を受ける程度に留まっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域包括支援センターの職員や、民生員から助言を受けている。	運営推進会議は年間6回、利用者・家族、地域の代表者、地域包括支援センター職員等の参加を得て開催されており、出席者の提案により年1回は地域住民の協力を得て防火訓練を行ったり、防災マップを作成したりと会議での提案や意見を反映させている。現状は、外部の方の参加がやや少なく、かつ固定化され、議題選定・意見交換もやや少ない傾向にある。	運営推進会議は、外部の人の目を通して事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、参加者の双方向的な意見交換により、率直な意見をサービス向上に活かすことを目的とされている。出来れば今後、多くの外部参加者の協力を得て、改善課題などの活発な意見交換を行い議事録を残し、業務反映の資とするなど、本来の趣旨に沿った会議運営・議題選定などに努め、そこでの意見をサービス向上に活かされることを期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	管理者、運営者は様々な研修、会議、説明会に出席している。	市主催の法令改正時の講習や研修会等に積極的に参加したり、運営推進会議の出席のお願いや会議時の意見交換などで交流を図っている。今年度は事業所新設に伴う2ユニットの相談などで、頻繁に市担当者と面談協議の機会を持ち、交流を深めることが出来たため、かなり密接な連携を保つことが出来た。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>一時的な身体保護目的以外の身体拘束は行っていない。身体拘束についてのマニュアルを作成し、防止に向けた規程を策定している。玄関はやむを得ない場合と夜間のみ施錠している。</p>	<p>身体拘束をしないケアに関するマニュアルを作成して、新人教育等を実施しており、職員ミーティング時などに「これは身体拘束に当たらない？」といった質問が出るほど、職員の意識や関心は深く、身体拘束に関する意識が身近な問題意識として定着している。玄関の施錠についても見守りとチャイムによりカバーしており、通常は特に施錠はしていない。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止のマニュアルを作成し、周知に努めている</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>管理者、運営者は研修等で学び、必要な利用者には関係者と話し合い、活用できるように支援している</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の際は十分に時間を取り、不安や疑問が残らない様説明し、質問に答えている。必要に応じて契約書を持ち帰り、納得がいくまで査収してもらった後、契約を締結している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>契約書に苦情申し立てできる窓口や、申し立てによって、入居者に不利益な扱いを行わない事を明記している。</p>	<p>利用者・家族からの意見や要望は、主として面会時に職員または管理者が受け付け、連絡ノートに記載して全職員に周知し、共有している。苦情については、措置の概要についてマニュアルで迅速に処理するための体制・手順を定めている。意見や要望についてもこれに準じて迅速な処理に努めている。空気清浄器がほしいという利用者の要望に応じて、施設新設時に施設全室の空気清浄を可能とする設備を設置して要望を実現・反映させた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>管理者は随時、職員から提案を聞いている。</p>	<p>職員意見の聴取は、毎日、朝・夕に行う20分程度のミーティング時に、連絡事項のみならず自由に意見や提案が行われている。また、年間2回の職員会議により、全職員での提案などの審議も行はれており、可能なものは速やかに運営に反映され実行に移されている。具体的事例としては、職員から要望のあった利用者用物品の速やかな購入や、いつでも自由に申請し休日が取れる制度の導入などに反映されている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は勤務表等により勤務状況を把握し、管理者の報告により、職場の人間関係、やりがい等を理解している。また、職員用のマッサージチェアを入れる等、職場環境を整備している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員の育成計画書を策定し、管理者や職員に段階的に社外の研修を受けさせている。社内研修も随時実施している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>同業者間のネットワークに加入しており、会議、勉強会、交流会、セミナー等に参加している。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>担当ケースワーカーやケアマネと十分に情報交換し、周囲の環境をよく検討し、聴く機会を設け努力している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>担当ケースワーカーやケアマネと十分に情報交換し、周囲の環境をよく検討し、面接時等、聴く機会を設け努力している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>家族と十分に情報交換し、本人と周囲の環境をよく検討し、見極める事ができる様、努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>家事等、日常生活上の作業を通じ、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いていると感じています。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会時間を特に設けずに、来たい時に気軽に来所して頂き、また、行事等にも参加して頂き、本人を共に支援していける関係を築けている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>希望があれば電話、手紙のやりとりができるように支援している。面会時間を設けず、誰でもお部屋に泊まれるよう準備をしている。</p>	<p>利用者本人の馴染みの人や場所の把握は、アセスメントや入居後の本人・家族とのコミュニケーションの中から逐次把握し、更新して支援に努めている。本人や相手からの希望により、いつでも電話や手紙など連絡が取れるよう支援したり、馴染みの方が訪問時に宿泊の要望があれば寝具・食事・入浴等を準備して、要望に快く対応し、関係が途切れないような体制を作為したり、再来をお願いしたりして関係維持・継続の支援に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を把握できる様、傾聴に努めている。また共同の作業等を通じ、支え合えるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	希望があれば、できる範囲で相談、支援に努めている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のコミュニケーションを通し、把握に努めている。	本人の思いや暮らし方の意向や希望は、アセスメントを基に、全ての職員が日々の介護を通じたコミュニケーションを通じて把握に努め、連絡ノートに記載し周知・共有して、更にモニタリングするなど確認している。また、新たに確認できたものは極力その思いや意向に対応した支援が出来るように努めている。「部屋を間違えて入室する他の入居者を、防いで欲しい」との要望に応じ、パーティションで部屋の入り口を仕切り、間違いに気付かせるよう対応する等の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	関係者から、可能な限り情報をもらっている。また、本人からも引き出せるようコミュニケーションを図っている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の記録の中に、心身状態をつぶさに記録し、できることを把握できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	本人や家族の意見やアイデアを反映している。	把握された本人や家族の思いや意向に基づき、計画作成担当者と現場の介護主任と管理者が、家族や必要な関係者からのヒアリングにより、それぞれの意見やアイデアを反映させ、更に作成したケアプランを計画作成担当者と管理者がモニタリングし、3～6カ月ごとに見直しを行い、現状に即した介護計画となるよう作成している。ヒアリングやモニタリング時に介護日誌の内容や職員の意見は聴取され、まとめられている。	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	項目通り、実施している。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	項目通り、実施している。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	警察、消防等の機関と協力している。ボランティアの方の協力は、今の所少ない。		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	協力医療機関以外の医療機関を希望される場合は、通院介助、担当医との連携を図っている。	本人・家族の希望を大切にし、かかりつけ医を希望する方は家族対応で受診している。事業所と家族・本人及びかかりつけ医との連携を密にし、適切な医療が受けられるよう支援に努めている。また、かかりつけ医以外による対応は、協力医が週1回往診と看護職員が週2回の現況の把握が行われており、緊急時などは総合病院を活用するなど、適切な医療支援が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>訪問看護ステーションと契約し、医療連携体制を整えている。また、適時相談、看護を受けられる様支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>受診時や、入居相談の際等、近隣の医療機関の相談員と、情報交換し、関係づくりができています。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化や終末期の方針について、検討、協議した上で、同意書にサインを頂いている。</p>	<p>重度化した場合や終末期の在り方については、入居時に「重度化した場合における対応・終末期ケア対応指針」により、本人・家族に説明し同意を得て「医療連携体制についての同意書」にサインをいただき、基本的な方針を共有している。現施設へ移転前の旧施設で、1ユニットの事業所ではあるが、過去に8件の看取りを行った実績があり、2ユニットに改編しても看取りに対応できる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変や事故発生時のマニュアルを作成して周知に努めている。定期的な訓練はできていない。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>資格を持った防火管理者を配置し、消防局に消防計画の届け出をしている。また、スタッフへの周知に努めている。近隣住民との訓練も実施している。</p>	<p>施設が昨年新設移転したため、最新の防火設備等、防火に関する設備対策は万全である。また、年間2回消防署の協力を得た訓練を実施しており、うち1回は地域住民2～3名の参加、協力を得て避難訓練を実施している。火災以外の災害全般についてもマニュアルがあり、新築2階建ての施設で自力で対応でき、加えて地域の協力があれば安心できる。</p>	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	管理者が全職員の接遇を観察し、適時注意、喚起している。	事業所の「倫理規定」や「個別ケア」という基本的対応の重視方針などから、利用者個々の人権・人格・プライバシー保護を支援の重視事項として、職員全体に指導されており、日常業務全般は勿論、特に顕著に表れやすいトイレ・入浴などの支援時の声掛けや対応などに配慮した指導を強化している。また、本人が嫌がることや嫌いな事、不得意な事を避け、得意な事・好きな事を主体に依頼するなど、誇りやプライドに細かく気配りした支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	希望を聞いたり、また引き出せる様コミュニケーションを図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事や昼寝の時間等、希望や日々の体調に応じて個々に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	必要な衣服等、本人と買い物に出て選んで頂けるよう支援している。理容美容についても自由に選んで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	積極的に希望を聞いて、できる範囲で応えている。	利用者本人の嗜好に関する情報は、利用時に家族・本人から入手するとともに、日常的な観察や会話から把握し、極力食事が楽しみなものとなるよう対応しているが、献立と食材が外部業者に依頼しているため、完全な対応は困難である。また、食事の準備や後片付けなどは利用者個々の能力や、自主性に任せた自然体で臨んでいる。外食は年間に1～2回計画的に実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事や水分の摂取量、メニューを記録し、栄養バランスに気をつけている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、声かけや介助をして、口腔ケアをしている。またチェック表をつくり、状況を把握している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄の時間を記録し、パターンや習慣を把握している。また適時誘導、声掛けを行っている。</p>	<p>現在、利用者の中で、ポータブルトイレ使用の1名の方を除き、全員トイレでの排泄が出来ている。利用者個々について、排泄の時間帯やパターン・習慣などが排泄記録表に記録・把握されており、これに基づき声掛けや誘導を適切に行う様支援に努め、排泄の自立に向けた支援に心掛けている。これにより利用開始時に比べて、紙おむつの使用が確実に減少する傾向が確認された。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>食物繊維を多くとっていただく為の食事や、散歩等で体を動かしていただくよう取り組んでいる。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴の曜日や時間は決まっているが、個々の体調や希望に応じて、柔軟に対応している。</p>	<p>一般的には、入浴日・入浴時間・入浴剤の使用等好みなどによる制限は無く、自由に入浴が利用できる。一部の入浴嫌いの方や全面的な入浴支援を必要とする方等は、週に2～3日、入浴時間は10～15時頃という一応の基準はあるが、極力個々の希望に応じた入浴ができるよう対応しており、本人の希望を無視したり、職員の都合を強要したりしないよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	睡眠の状況を記録し、必要に応じて医師に相談し、処方を変えてもらう等支援している。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	薬の説明シートを保管し、情報を共有しており、急変時にはすぐに医師に報告をしている。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	個々にあった役割や楽しみがあり、継続できる様支援している。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	買い物に参加してもらう等、努力している。また家族に協力してもらっている。	天候にもよるが、週に2～3日希望される利用者は、30分程度戸外に出かけ散歩を楽しんで頂いている。また、事業所の計画で、季節の行事として、花見・紅葉狩り・花火見物等に、家族の協力を得ながら楽しんで頂いたり、新年の初詣でや買い物支援なども適宜取り入れて、外出の機会を意図的に作り楽しんで頂いている。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	トラブルを避ける為に、主に希望の物を預かり金で購入している。金銭管理が可能な方には、トラブルに十分配慮しながら所持していただいている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>希望があれば電話、手紙のやり取りができるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>落ち着いた雰囲気を演出できるように光量を調節したり、音楽を掛けたりしている</p>	<p>共用空間は意識的に、家庭的でモダン過ぎない落ち着いた雰囲気となるよう、室内の色調や照明・調光が採り入れられており、更に、懐かしい音楽をBGMとして流したりして、くつろげる環境が整備されている。また、ソファやクッションの配置や、季節行事の飾り付けなどにも配慮したり、全員で行う集団リレーションを避けて、個人の会話や趣味が活かせる空間づくりを工夫している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ダイニングテーブルとは別にソファを2脚設置し、工夫をしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>馴染みの家具があれば、お持ちしていただくようにしている。</p>	<p>室内の備品はエアコン・ベッド・カーテンと洋タンスのみで、その他寝具、椅子や机、鏡台やタンスなど家具類や電気製品、なかには盆栽など、本人の好みや使い慣れた物を自由に持込んで居心地よく過ごせる居室づくりに心掛けています。また、本人が必要だと思われるものが無い場合等には、家族に連絡したり、家に行ったりして、本人が少しでも居心地よく過ごせるよう支援に努めている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>空室がでた場合には、御本人の状況によって居室を変える等、柔軟に対応している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム太陽

作成日 平成28年2月23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所理念を定め、共有し具現化して実践に繋げやすくする。	スタッフ全員が理念を理解し、日々心がけてサービスを行う	スタッフが解り易く提示すると共に申し送り、会議等での説明徹底する。	6ヶ月
2	3	運営推進会議において、意見交換をし、質の高いサービスに繋げる様にする。	参加者を多く募って意見交換をし、利用者様、家族様の意見を反映したサービスを展開する。	多くの方の会議参加募集案内、議題検討、地域連携、議事録を残しサービスに反映させる。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。